第446回 一橋大学開放講座

参加費：無料

PIANO

ピアノの歴史

技術革新が拓いた魅惑の世界

モーツァルト、ベートーベン、シューマンが愛した
18・19世紀のピアノによる音楽をご堪能いただきます

ピアノが現代の形になったのは約100年前のこと。
ドビュッシーやラヴェルが弾いていたピアノも、実は現代ピアノとは異なります。
作曲家は目の前の楽器からインスピレーションを受け、作品にメッセージを込めて作曲しました。
ピアノの変化と共に作品が変わりゆく「ピアノの歴史」をお楽しみください。



…小岩 信治氏

一橋大学言語社会研究科教授

東京藝術大学を経て同大学大学院博士課程単位取得満期退学。
ベルリン芸術大学博士課程修了（Dr.Phil）。
静岡文化芸術大学文化政策学部准教授、東京芸術大学音楽学部、東京大学文学部、明治学院大学文学部ほかでも講師を務める。



…小倉 貴久子氏

ピアニスト
東京藝術大学古楽科講師

東京藝術大学を経て同大学大学院修了。アムステルダム音楽院首席卒業。日本モーツァルト音楽コンクールピアノ部門第1位。ブルージュ国際古楽コンクールアンサンブル及びフォルテピアノ部門第1位と聴衆賞受賞。NHK「名曲探偵アマデウス」「ららら♪クラシック」など出演多数。文化庁芸術祭【大賞】受賞。ミュージック・ペンクラブ音楽賞【独唱・独奏部門賞】授賞。日本音楽コンクールピアノ部門審査員。



アントン・ヴァルター
Anton Walter

1795年製の復元楽器（C.Maene製）
跳ね上げ式　63鍵／F1~g3

ウィーン古典派の巨匠モーツァルトやベートーベンに支持され、18世紀末のウィーンで最も人気のあった製作家。膝レバーによるダンパー解放装置（右膝）と、弦とハンマーの間に薄い布を挟み込み音色を変化させるモデラート（左膝）が付いている。ハンマーヘッドは鹿革で、鉄弦と真鍮弦（低音域）が木製のケースに弱い張力で張られている。軽いタッチ、明快な発音、倍音の豊かな音色が魅力。



ヨハン・バプティスト・シュトライヒャー
Johann Baptist Streicher

1845年製　跳ね上げ式
80鍵／C1~g4

19世紀のウィーンを代表するピアノ製作家。ウィーン、ドイツ系のロマン派の作曲家シューベルト、メンデルスゾーン、シューマンなどと深い関係をもつ。バプティストの祖父シュタインはウィーン式アクションの発明で知られモーツァルトと知己があり、母ナネッテはベートーヴェンと親しく、まさにウィーンのピアノ音楽界を支えた製作家一族。何層かに巻かれた革巻きのハンマー、2本の鉄柱のみで支えられた木製のケース。ドイツロマン派の芳香な響きは夢のよう。



ベヒシュタイン
Bechstein

1923年製

リヒャルト・ワーグナーやフランツ・リストなどが愛好した当時の世界的な名器。1944年当時、日本に3台だけあった中の1台で、学業半ばで徴兵され出征する東京商科大学（一橋大学の前身）の学生達の壮行会で、日本人初のショパン国際ピアノ・コンクール入賞者であった原千恵子さんが演奏した後、所在不明となっていたものが、2003年に一橋大学の片隅で偶然発見され、修復されたもの。現在は、一橋大学同窓会館「如水会館」に設置。

9月25日 火　18:00～20:00
如水会館2F　スターホール

お申込み

①WEBから▶『一橋大学開放講座』で検索

②FAXから▶ 03-3262-2150
（講座名、氏名、ふりがな、会員番号、電話番号を明記の上、送信ください）

お問合せ

一般社団法人如水会
TEL: 03-3262-0126
e-mail : seminer@ josuikai.info